

「花壇づくりをととしての大学との交流」

～九州ルーテル学院大学との交流 10年間のあゆみ～

熊本県立ひのくに高等支援学校

1 はじめに

本校は、生徒の自律的、主体的な態度を尊重しながら、社会自立・職業自立のための教育を目標にした県内唯一の高等部だけの特別支援学校です。中心となる学習となる専門学科は、園芸科・工芸科・クリーニング科（皮革工芸を含む）・窯業科からなり、各学科での作業学習をととして卒業後の社会生活や職業生活に必要な実践的な知識や技能、態度を身につけることをねらいとしています。また、現場実習や作業製品の販売会、地域のボランティア活動、陸上や音楽の同好会活動など、校内のみならず、校外での学習活動も多く取り入れています。その中で、平成18年の秋から園芸科の生徒を中心に、九州ルーテル学院大学（熊本市中央区黒髪）と同大学内の花壇づくりを通じた交流活動を行っています。今年その交流活動が10年目をむかえることとなり、そのあゆみを紹介します。



2 大学と本校のつながりと花壇づくりによる交流のはじまり

以前から同大学の教育実習生の受け入れ、同大学教授に本校の学校評議員をお引き受けいただくなどつながりは深く、日頃から御助言や御指導もいただけてきました。その中で、平成18年の2学期から、同大学キャンパス内のスペースの提供を



を受け、本校園芸科の生徒が育てた花苗を使って花壇づくりを行うことになりました。ねらいは、日頃の作業学習の状況を多くの人に見てもらうことで、生徒たちの自信につなげることにあります。また、活動の中で大学生との交流を図りたいという思いもありました。



3 花壇づくりと交流活動の内容

第1回目は、秋の花苗を使った花壇づくりを行うこととし、平成18年の11月に計画しました。提供いただいた場所は、建物の立ち並ぶ大学の中心に位置し、日当たりのあまり良くない中庭でしたが、図書館や各建物からよく見える場所でした。



花壇は、約3m×1mの長方形花壇が4か所、直径1m程の円形花壇が1か所でした。最初は土づくりから始めました。これまで何も作られていない場所の土は固く苦労しましたが、鍬やスコップなどを使い土を耕し、堆肥や肥料などを入れ花壇を作っていました。生徒たちも完成した花壇を見て満足げで、大学側からも「今までこの場所は荒れていて学生も避けて通っていたが、花壇ができたことで癒しの空間になります」などの感謝の言葉をいただきました。生徒たちにとってもよい刺激となったようです。その後もこの交流活動は続き、現在に至っています。現在は、年に3回（各学期に1回）の交流を行っています。内容は、本校生と大学生も参加して、6月上旬に秋の花の撤去と春の花の植え付け、11月上旬に春の花の撤去と秋の花の植え付け、1月に花壇の手入れと1年間の活動を振り返る交流会です。1月の交流会では大学側のご好意で学食の体験もさせていただいています。また、本校からの移動は大学側のバスで送迎していただいています。近年は花壇づくり以外にも、生徒たちが配置デザインなどを考えて同大学の卒業式の会場装飾も行うなど交流が広がっています。



4 おわりに

本校生は、この花壇づくりと交流会などで大学生の皆さんや大学職員の方と触れ合い、コミュニケーションの取り方も学んでいます。また、自分たちでデザイン、植え付けを行った花壇を多くの人に見て



もらい喜んでいただけることは、本校生にとって大きな喜びで、仕事に対する意欲や自信になっているようです。この10年、校内だけでは学ぶことのできない貴重な経験の場をご提供いただいた九州ルーテル学院大学には感謝の気持ちでいっぱいです。今後は園芸科のみの活動にとどまらず、本校全体で、同大学との交流活動をさらに充実させ、よりよいものにしていければと思っております。

